

野生動物棲み分け 実践録

和歌山県 F. Fさん vol.01

ぎん【木霊銀木犀 2024/10/15 生】がやってきて、約9ヶ月が経ちました。

ぎんが居てくれるだけで、野生動物（主に鹿、猿）が近づくこともかなり少なく、野生動物にとっては「犬」の存在自体が第一の牽制になっているんだとすごく体感できた期間でした。

しかし、それも初めのうちだけで、夜には徐々に雌鹿の声が聞こえてきたりもしていましたが、追いつく程の距離ではありません。

鹿が周辺に来るようになってからでも、猿の姿は全く見かけていませんでした。

この家に来て今年で4年目、うちの家の周辺には柿の木が数本植ってますが、毎年ほとんど柿を取れた試しがなく、今までは諦めていました。

猿を呼ぶだけだし、もういっそ伐ってしまおうかと考えたこともありました。

でも今年からはぎんがいる！

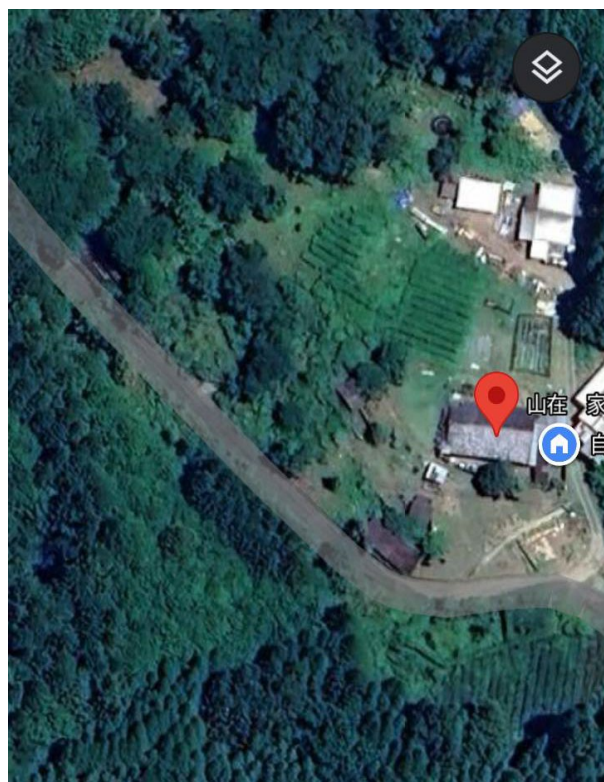
それだけで今年は柿を獲ることができるんじゃないかと心躍っていました。

しかも今年はなかなかの豊作。

今年こそは干し柿に柿酢！などと期待を膨らませていました。

そんなことを考えている中、とうとうやってきました…猿集団。

この時、鶏舎作りの作業をしていて昼休憩中に家に居ると、外から「キャッキャキャッキャ」と声がして、久しぶりの鳴き声に一瞬「あれ？この鳴き声何やっけ…」と考えましたが、外に出るとやっぱり猿の声。



自宅周辺の様子

すぐに「猿や！！」と家族に伝え、家族と一緒にぎんを連れ、猿の声のする方へ。おそらく猿と対峙するのが初めてのぎん。

その時のぎんは、何かを察知してる様子も、警戒モードでもなく、僕たちについてくるだけでしたが、猿の気配に近づくにつれ、僕たちがあちこち見まわしたりする様子や、雰囲気を感じてか、ぎんも一気に警戒モードに。

それから僕が猿を目視。ぎんはまだ目視はできていないみたいでしたが、気配を察知してか僕の視線の先へ走り出しました。

「ぎん！ゴーゴーゴー！」の声と共に、ものすごいスピードで猿の方向へ駆け出し、あっという間にぎんの姿が見えなくなりました。

それから間もなく、「ギャギャ！キーキー！」などの激しい鳴き声と共に、猿達が必死に逃げているのか、枝が揺れる音や葉っぱの擦れる音などが聞こえてきました。

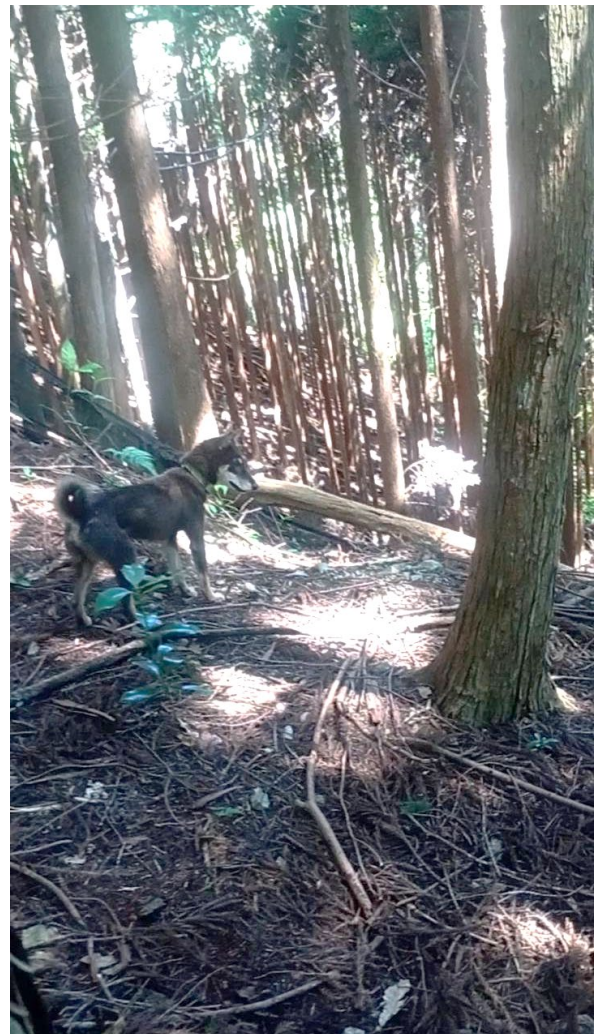
僕も追いかけていましたが、追いつけず、ある程度音が静まったところで「ぎんもういいよ！おいで！」と呼び戻し、それから2、3分くらい経って戻ってきて、そのあとは褒めちぎりました。

ぎんとは山の中で合流し、一緒に帰り出しましたが、山から出るまでは周りをキョロキョロし、警戒しながら歩いていました。

ぎんは体もまだまだ小さく、成犬ではないものの、猿を追い払う姿はいつもより大きく逞しく見えて、凄くカッコ良かったです。

ちなみにぎんが来てから、今の所一切獣害もなく、猿が好きな春の玉ねぎも、夏前のじゃがいもも豆類、果菜類も無事で、安心して畑の物を食べられる生活ができています。

今後は果樹も守れると実感したので、果樹栽培もやっていきたいと考えています。



キョロキョロと警戒してる めん

【まえおき】

61 号の Jomon 密着取材で登場したオコメ【秋月の紅姫 2018/10/12 生】は、残念ながら会誌の発行前日に亡くなりました。

死因ははっきりとは分かりませんが、フィラリアは完治していたものの、フィラリアの後遺症により血管内に傷があり、血栓ができた可能性があると考えています。この点については、治療前に獣医師からも完治後のリスクについて助言を受けていました。

棲み分け実践者
T. Yさん

私自身、オコメの兄妹を飼っていることもあり、訃報を聞いたときには深い悲しみを覚えました。しかし、亡くなる前に会誌の記事として紹介できたことは、オコメへの感謝の気持ちを言葉にし、その思いを次の世代へとつないでいく大切な機会となりました。

R. Y

オコが死んでから3か月半、悲しみに浸る間もなく、ニワトリ小屋に猫やカラスがやってくる。やはりオコの存在は大きかった。

悩んでいたところに新しい犬の話やってきて家族全員で喜んだ。新しい犬は愛知県からやってきました。

名前は「オコメ」にちなんで、「ムスビ」になりました。縁をむすぶという意味もあります。

ムスビがやって来た日にちょうどニワトリの卵も還ったのでヒヨコ達ともご対面。

最初はヒヨコ達に飛びかかろうとしていたムスビも3か月経った今では、お互いの存在の認めて、平和にしているように見える。

その後ムスビが外の小屋に移動してから猫もカラスも来なくなりました！

やはり犬の存在はとても大きい！

とはいえ、番犬があまりにも無害で何もしないと猫もカラスも安心して来るようになるという事も最近知ったので、猫、カラスはやってきてはいけない、追い払ってほしい！というこちら側の気持ちをムスビに理解してもらうのがこれからの課題である。

2025.8 T. Y



こだま【木霊の黒桜 2024/10/15 生】は少し前までは車や通りがかりの人を追いかけていました。

最近は放して放っておいても追いかけて行かなくなって来ました。

私達が作業している周りをウロウロしているか自分のテリトリー内を散策しています。

たまに私達の視界から消えた時は呼び戻しをして沢山褒めてご褒美をあげます。

それと近所の方々のスイカが猿軍団の1波と2波にやられ全滅したそうです。

我が家だけはこだまのおかげで全く被害はありません！

近所の方々も「こだまがいるからかなあ」と

縄文芝犬を認知し始めています♪

嬉しい傾向です



こだまが守る畑



こだま【木霊の黒桜 2024/10/15】



畑で採れたスイカなど